

2 小学校 ～意地悪をされた児童が引き起こしたいじめの事例～

小学校3年生のB男は、何事にも積極的でリーダー的な存在だった。しかし、自分勝手な面も多く、1年生の時から同じクラスで仲の良かったN男やY男に対しても、仲間はずれにするなどの意地悪な行動をとることがあった。

5月を過ぎた頃から、いつもB男と一緒にだったN男とY男が次第にB男から離れ、B男を無視するようになっていった。最初は、N男とY男の2人が始めたことであったが、2人は他の友達も誘い一緒になってB男を無視したり排斥したりするようになり、B男とのかかわりを避けるような雰囲気学級全体に広がっていった。

そのような中でも、B男は自分から積極的に友達にかかわろうと努めていたが、学級の中で孤立感を深め学校を休むことが多くなってきた。

子どもの前兆行動（サイン）の把握

1 子どもが見せる小さな変化

B男は、積極的な性格で学級でも目立つ存在でしたが、なんとなく元気がなくなり周囲のことを気にするようになったり、急に教師とのかかわりを求めるような様子を見せたりするようになっていきました。

B男と仲の良かったN男とY男は、教師からB男のことを聞かれても「分からない」と無関心を装ったり、教師とのかかわりを避けたりするような様子が多く見られるようになっていました。

また、学級の他の子どもたちにも、担任がいるときといないときで、態度を変えるような雰囲気が感じられるようになりました。

担任の対応のポイント

「どうしたんだろう」「少し変わってきたようだ」などと感じたら、子どもの交友関係や生活の様子などを継続的に観察します。

連携による情報収集

2 連携による情報収集

担任は、B男やN男、Y男、学級の他の子どもたちの行動や態度の変化をより的確に把握するため、日常のきめ細かな観察を継続するとともに、前担任や教科担任、保護者等と連携した情報収集に努めました。

校内の他の教職員や保護者と連携した情報収集に努め、実態を把握します。

行動等の変化の理由・背景の把握

【学校内の連携による情報収集】

○前担任等との連携～情報交換、指導記録等による児童理解

- ・前学年、前学級における子どもの様子と変化について情報交換を行う。
- ・前学年までの指導の記録等を確認する。

○教科担任・養護教諭等との連携～定期的な情報交換

- ・担任以外の教師の授業の様子、保健室の利用状況、休み時間の遊びや人間関係等について、複数の教職員から情報を得るなど、定期的な情報交換に努める。

【家庭との連携による情報収集】

○保護者との連携～連絡ノートや電話、家庭訪問等による情報交換

- ・学校での様子を伝え、子どもの生活について共通理解を図るとともに、家庭の中で保護者が気付いた子どもの変化（言動や遊び、交友関係の変化等）について情報交換を行う。

3 問題の理解と指導方針の確立

情報の分析
と問題の把握

他の教職員や保護者からの情報を得た担任は、B男とN男、Y男の関係が急に変化したことや学級の子どもたちのB男への接し方が変わってきていることなどから、B男に対するいじめの兆候があり、そのことにN男やY男が深く関係していると判断しました。

そして、迅速な事実関係の把握に努め、それぞれの子どもが抱える問題を次のようにとらえるとともに、B男やN男、Y男、さらには学級の子どもたちに対する指導の方針を明確にして指導に当たることになりました。

問題を踏まえた指導方針の確立と、具体的な指導の展開

<B男がかかえる問題>

- 自分勝手な行動や言動に、N男やY男が不満、反感を募らせていたことが分からず、自分が排斥される理由を理解できない。
- 友人関係がうまくつくれないことに孤立感を強めている。

<N男、Y男がかかえる問題>

- B男に意地悪をされてきたことを理由に、B男を無視する自分たちの行動を正当化しようとする気持ちがある。
- 自分たちだけではなく、他の子どもに対してもB男を無視したり排斥したりするような働きかけをしている。

【指導の方針】

～B男に対して～

- ★日常の会話等を通してB男の悩みに耳を傾けるとともに、よりよい交友関係を自ら築いていけるよう指導する。
- ★B男のよさを認めるとともに、そのよさを学級の子どもに積極的に伝えB男に自信をもたせる。

～N男、Y男、学級に対して～

- ★学級における指導を通して、B男の辛い気持ちや自分たちのとった行動について考えさせる。
- ★学級全体で取り組む活動を工夫し、互いのよさを認め合う支持的な学級風土の醸成に努める。

～B男の保護者に対して～

- ★連絡ノート等を活用して学校や家庭における生活の様子の情報交換を継続し、B男の気持ちや行動等について共通理解を図りながら指導の充実に努める。

<学校としての対応>

- ★全教職員が、B男をはじめとする学級の子どもたちの気持ちや行動を共感的に理解することに努め、それぞれの立場から、好ましい人間関係や支持的な学級風土の醸成を図る具体的な指導を意図的、計画的に展開する。

■本事例におけるポイント■

子どもの前兆行動（サイン）

<いじめる子>

- 教師とのかかわりを避けるようになった。
- 相手によって態度を変えるようになった。

<いじめられる子>

- 友達や周囲の人の様子を気にするようになった。
- 元気がなくなり、消極的になった。

教師の対応等

- 校内の教職員からの情報を活用し、子どもの行動や態度等の変化を総合的にとらえるよう努めた。
- 日常の会話や行動の中で気付いた子どもの様子の変化などについて、保護者からの情報提供を依頼した。
- 継続的な観察や指導記録等の資料を基に、変化の理由や背景の理解に努めた。